

中国農村部における牧畜民の定着後の生計に関する研究

—中国新疆及び内モンゴルを事例に

陳 静

キーワード：生計、牧畜民、定着、新疆、内モンゴル

近年、中国農村部において生態保全や貧困削減を目的として展開されている牧畜民の定着プロジェクトは、中国における牧畜民の従来の遊牧生活を一変させた。しかし、当該プロジェクトにより定着した牧畜民の生計の実態については、ほとんど明らかになっていない。そこで本研究では、定着した牧畜民の生計状況をより多角的に考察した上で、彼らのより持続可能な生計を促進するための提言を行いたい。牧畜民の生計資本及び生計目標を把握するために、中国の乾燥地域及び半乾燥地域における放牧地を対象に調査を実施した。調査の結果、乾燥地である新疆・カラマイに暮らす牧畜民の生計資本の平均値は0.733、半乾燥地である内モンゴル・ウランマウヅに暮らす牧畜民の生計資本の平均値は0.685で、両方とも「良好」範囲に属していることが明らかとなった。また、牧畜民の生計目標を分析したところ、生計向上に対するモチベーションの差が、公的な政策の実行効果に影響を与える可能性が示唆された。したがって、政策を考案するにあたり、牧畜民の生計目標を配慮する必要があると考えられる。加えて、放牧地の特性により、生計の脆弱性に大きな差があることがわかった。以上の結果から、定着した牧畜民のより持続可能な生計を促進するためには、現地の実態に基づいた施策の策定が不可欠であるといえよう。